

株式会社島津製作所
(東証プライム市場：証券コード7701)

2026年3月期 第1四半期決算説明会

常務執行役員 前田愛明

2025年8月7日

【司会：山口】登壇者紹介

本会議の内容に関しては、現時点の予測に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、これらは全てリスク並びに不確実性を伴っております。実際の結果が見通しと異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

それでは前田常務、ご説明をお願いいたします。

第1四半期 増収増益

売上高・営業利益とも前年および当社想定を上回って増加

- ・【売上高】 **1,184億円 (前年同期比+1%)** : 5期連続で1Q過去最高を更新
- ・【営業利益】 **122億円 (前年同期比+11%)**

セグメント別

- ・計測 : 増収増益 / 売上高は5期連続で1Q過去最高を更新 **19%増益**
- ・医用 : 減収減益 / 受注残が少なかったことから厳しく推移
- ・産業 : 減収利益横ばい/ 為替影響を除けば増収増益
- ・航空 : 増収増益 / 売上高・営業利益とも1Q過去最高を更新

通期目標

- ・ 8月以降の関税率改定による世界経済および当社事業への影響が不透明であり現時点では通期目標は売上高・営業利益とも据え置く

まず、決算業績のハイライトです。2ページをご覧ください。

第1四半期は増収増益となりました。売上高は、1,184億円と5期連続で第1四半期の過去最高を更新しました。営業利益は、増収による効果などにより、増益となりました。

セグメント別には、のちほど詳しくお話ししますが、計測が売上高で、航空が売上高・営業利益いずれも、第1四半期として過去最高を更新しています。

通期目標に関しましては、現在、8月以降の関税率改定による世界経済および当社事業への影響が不透明です。

したがって、現時点では、売上高5,150億円、営業利益580億円との、5月に発表した目標を据え置きます。今後、影響額が確認できた段階で、通期目標を見直す予定です。

01 決算概要

	単位：億円	第1四半期(4月-6月)		前年同期比	
		FY2024	FY2025	増減額	増減率
業績	売上高	1,169	1,184	+14	+1%
	営業利益	110	122	+12	+11%
	営業利益率	9.4%	10.3%	+0.9pt	
	経常利益	137	113	▲24	▲17%
	親会社株主に帰属する当期純利益	100	79	▲21	▲21%
為替	平均為替レート：米ドル(円)	155.9	144.6	▲11.3	▲7%
	ユーロ(円)	167.9	163.8	▲4.1	▲2%
	研究開発費	68	73	+4	
	設備投資額	42	54	+12	
	減価償却費	48	50	+2	

為替影響額

売上高 : ▲50億円
 営業利益 : ▲8億円

↓

為替差損益 : ▲36億円

(売上高、営業利益は平均為替レートで、為替差損益は期末レートで計上)

FY2024 1Q : 為替差益 +24億円
 期末レート 3月末・1ドル151円→6月末・161円
 FY2025 1Q : 為替差損 ▲13億円
 期末レート 3月末・1ドル150円→6月末・145円

業績サマリーです。

売上高、営業利益は、前ページで申し上げた通りです。営業利益率は10.3%と0.9ポイント向上しました。

営業利益の増益要因に関しましては、次ページでご説明します。

経常利益は、113億円となり、前年同期比マイナス24億円・マイナス17%となりました。

主な減少理由は営業外損益で、前年と比較して36億円の為替差損益が発生したためです。

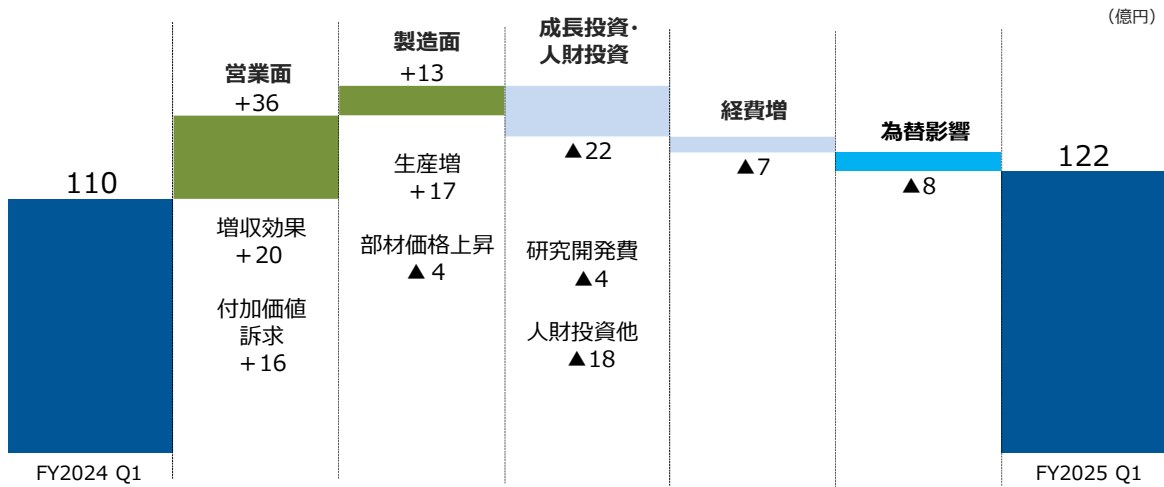
また、親会社株主に帰属する当期純利益は79億円で、前年同期比マイナス21億円・マイナス21%となりました。

研究開発費は73億円で、研究開発費比率は6.1%と1Qとして過去最高となりました。

連結 / 営業利益増減要因



- 営業面 : 増収による効果と付加価値訴求で増加 +36億円
- 製造面 : 部材価格は上昇したが生産増による工場業績向上により増加 +13億円
- 成長投資 : 研究開発費、人財投資などの成長投資 ▲22億円



*記載の数値は億円未満を四捨五入した数値となっており、表記上の合計値、差額と合わない場合があります。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期第1四半期決算説明会

5

続きまして、営業利益増減要因についてご説明します。

営業面に関しては、増収による効果や付加価値訴求を進めたことにより、前年同期比36億円の利益増加となりました。製造面では、生産高が順調に増加し、17億円粗利が改善しました。部材価格は上昇しましたが、生産増による工場業績向上で、製造面での利益影響はプラス13億円でした。成長投資につきましては、研究開発費が4億円増、人財投資が18億円増などで、22億円増加しております。為替による影響は、8億円の押し下げとなりました。

セグメント別損益



- 計測：増収増益 売上高 過去最高
- 産業：減収利益横ばい 除為替 増収増益
- 医用：減収減益
- 航空：増収増益 売上高・営業利益 過去最高

単位 億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2024	FY2025	前年同期比		FY2024	FY2025	前年同期比		FY2024	FY2025	前年同期比 増減
			増減額	増減率			増減額	増減率			
計測機器	738	758	+20	+3%	73	87	+14	+19%	9.9%	11.5%	+1.6pt
医用機器	155	137	▲18	▲11%	1	▲8	▲8	-	0.5%	-5.5%	▲6.0pt
産業機器	175	168	▲7	▲4%	27	26	▲0	▲0%	15.2%	15.7%	+0.6pt
航空機器	87	99	+12	+14%	13	21	+7	+55%	15.2%	20.7%	+5.5pt
その他	15	22	+7	+48%	▲2	2	+4	-	▲8.6%	8.8%	+17.4pt
調整額			-	-	▲3	▲7	-	-	-	-	-
合計	1,169	1,184	+14	+1%	110	122	+12	+11%	9.4%	10.3%	+0.9pt

続きまして、セグメント別損益についてご説明します。

計測は増収増益。売上高は5期連続で第1四半期として過去最高を更新しました。営業利益も19%の増益となり、営業利益率は11.5%と前年同期比1.6ポイント改善しました。

医用は減収減益。8億円の営業損失となりました。

産業は減収で利益は横ばいです。為替影響により売上高・営業利益とも前年比マイナスとなりましたが、為替影響を除くと増収増益です。営業利益率は15.7%と前年同期比0.6ポイント改善しました。

航空は増収増益。売上高・営業利益とも第1四半期として過去最高を更新しています。

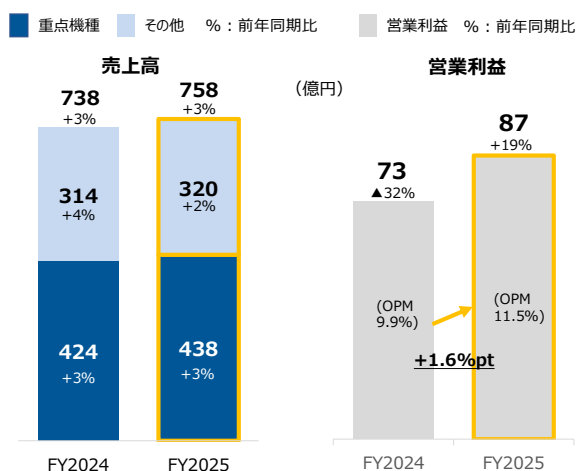
営業利益率は大きく改善し、前年同期比5.5ポイント改善の20.7%でした。

詳細は、各セグメントのパートでご説明します。

計測機器 / 売上高・営業利益



- 売上高 : 重点機種、その他機種ともに過去最高を更新
- 営業利益 : 増収の効果などにより増益。営業利益率は1.6pt改善



重点機種 売上高 438億円

- ・ 為替影響により前年同期比+3%にとどまる (除為替 +9%)
- ・ 日本の化学市場でLC、北米臨床市場でMSが増加

その他 売上高 320億円

- ・ 中国やインドで官庁/大学向けに表面観察システムが好調

リカーリング 売上高 317億円 (前期比+5%)

- ・ リカーリング売上高比率 42% (対前年同期+1pt)
- ・ 米国Zef社連結効果でサービスが増加



※重点機種：液体クロマトグラフ (LC)、質量分析システム (MS)、ガスクロマトグラフ (GC)

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2026年3月期第1四半期決算説明会

7

続きましてセグメントごとに、業績をご説明します。まずは計測機器です。

売上高は、758億円で前年同期比プラス20億円・プラス3%となりました。為替影響を除けばプラス7%です。

重点機種の売上高は、438億円で前年同期比プラス14億円・プラス3%となりました。為替影響を除けばプラス9%と順調に伸びています。その他機種の売上高は、320億円で前年同期比プラス6億円・プラス2%となりました。

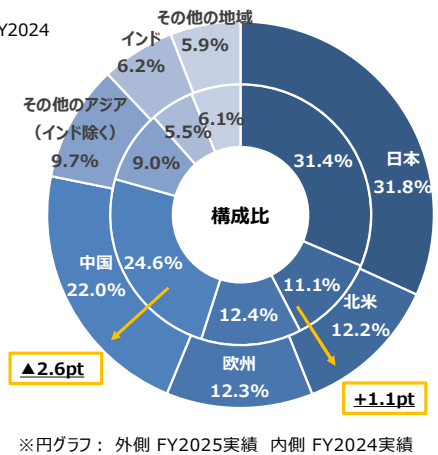
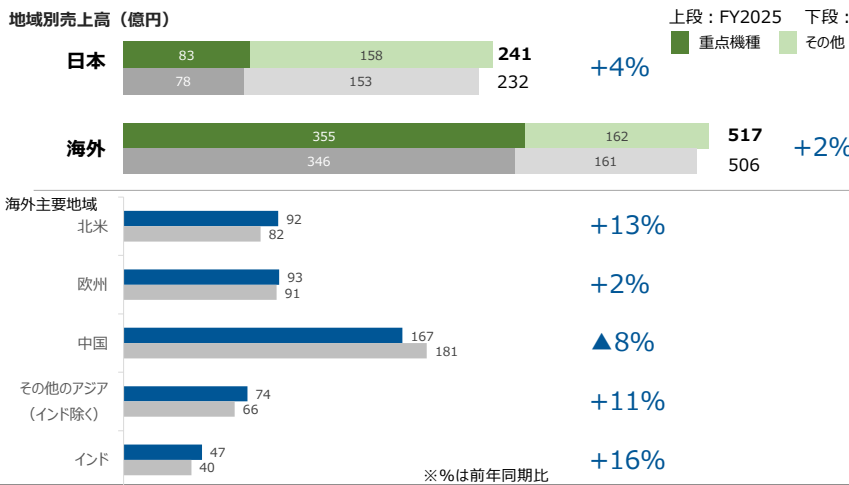
なお、重点機種・その他機種ともに売上高は第1四半期として過去最高を更新しています。リカーリング売上高比率は、製品販売も伸長するなか、前年同期比1ポイント上昇し、42%です。

営業利益は、増収の効果などにより、87億円、前年同期比プラス14億円・プラス19%となりました。営業利益率も11.5%と1.6ポイント改善しました。

計測機器 / 地域別売上高



- 日本：241億円で+4%
- 海外：517億円で+2%。中国の売上減少を北米、その他のアジアやインドを中心に他地域でカバー
海外売上高比率は0.4%減の68.2%。中国比率は2.6pt低下し22%



続きまして、計測の地域別売上高についてご説明いたします。なお、為替を除く成長率は補足資料の中の26ページに記載がございます。あわせてご覧ください。

日本は、前年同期比プラス4%となりました。化学向けに液体クロマトグラフが、食品・大学向けに質量分析システムが伸びました。

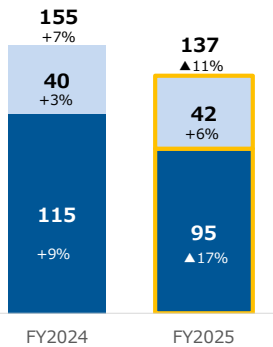
海外全体は、中国の落ち込みを北米、その他のアジア、インドがカバーし、プラス2%となりました。為替影響を除くとプラス9%です。

北米は、前年同期比プラス13%となりました。臨床検査向けに質量分析システムが増加し、また、石油化学向けにガスクロマトグラフが増加しています。欧州は化学向けにガスクロマトグラフが増加し、プラス2%でした。中国は、民需が引き続き厳しくマイナス8%にとどまりましたが、為替影響を除くとマイナス1%となり回復傾向にあります。インドを除くその他のアジアは、東南アジアや韓国で官庁・大学向けに質量分析システムが増加し、プラス11%となりました。インドでは医薬・食品向けに質量分析システムが増加し、プラス16%となりました。

- 売上高 : X線機種は減少、その他機種は増加
- 営業利益 : 売上減、プロダクトミックス悪化などにより減益

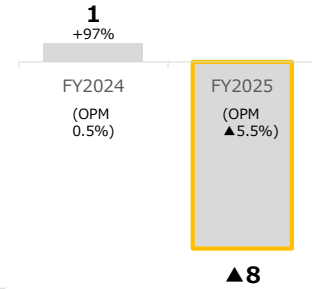
■ X線機種 ■ その他 % : 前年同期比 ■ 営業利益 % : 前年同期比

売上高



(億円)

営業利益



X線機種

売上高 95億円

- 受注残高が少なかったことにより厳しく推移。
- 撮影機種の受注は過去最高。

その他

売上高 42億円

- 放射線治療支援システムが日本で増加

リカーリング

売上高 65億円 (前期比+2%)

- リカーリング売上高比率 47% (対前期+6pt)
- 北米、アジアで順調に増加

続きまして医用機器です。

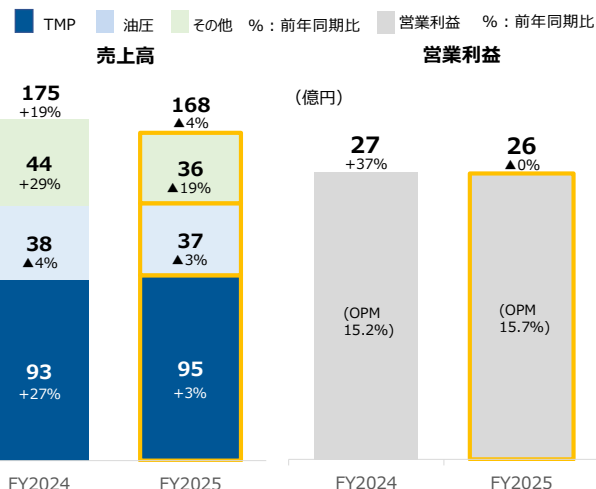
売上高は137億円となり、前年同期比マイナス18億円・マイナス11%となりました。

受注残高が少なかったことによりX線機種は減少しました。一方、その他機種は増加しました。

営業利益は、売上高の減少やプロダクトミックスの悪化により8億円の営業損失、前年同期比マイナス9億円となりました。

4～6月の売上高・営業利益は厳しい結果となりましたが、受注は前年同期比プラス1桁後半パーセントと好調に推移しております。特にX線機種のうち「一般撮影」機種については受注が過去最高となっています。また、第2四半期以降は新製品による売上増や販管費の抑制などでも、業績挽回をはかってまいります。新製品についてはのちほど15ページでお話しさせていただきます。

- 売上高 : 半導体製造装置 (以下SPE) 向けTMPは増加、油圧機器や工業炉が減少
- 営業利益 : TMPのリカーリング比率向上により粗利率改善も、為替影響により微減



TMP 売上高 **95億円**

- SPE向けが日本、欧州で減少するも、中国、韓国で増加
- SPE向けサービスが増加

TMPリカーリング 売上高 **20億円 (前期比+18%)**

- **TMPリカーリング売上高比率 21%(対前期+3pt)**

油圧 売上高 **37億円**

- 産業車両向けの市況が弱含みで推移

その他 売上高 **36億円**

- 工業炉が減少

続きまして産業機器です。

売上高は168億円、前年同期比マイナス7億円・マイナス4%となりました。

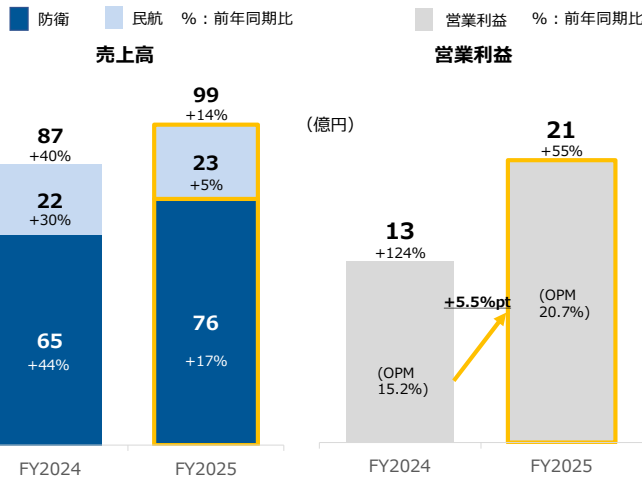
TMPは、半導体製造装置向けに製品やリカーリング事業が拡大し、95億円、前年同期比プラス2億円・プラス3%となりました。一方、油圧機器や、EV用セラミック部品製造向け工業炉が減少しています。

営業利益はTMPのリカーリング比率が3ポイント向上したことなどにより粗利率が改善しましたが、円高影響で、前年同期比マイナス1億円の26億円となりました。

航空機器 / 売上高・営業利益



- 売上高 : 防衛向け、民間航空向けとも増加
- 営業利益 : 増収効果により大幅増益



防衛 売上高 76億円

- 政府の防衛力強化方針により需要が拡大

民航 売上高 23億円

- 民間航空機向け搭載品や航空会社向け補用部品が増加

航空機器についてご説明します。セグメント別の最後です。

売上高は99億円で、前年同期比プラス12億円・プラス14%と増加しました。防衛力強化方針により需要が拡大した防衛向け、旅客需要の回復に伴い需要が拡大した民間向けとも増加しています。

営業利益は増収による効果により21億円、前年同期比プラス7億円・プラス55%と大幅に増加しました。第1四半期として過去最高です。営業利益率も前年同期比プラス5.5ポイントと大きく増加し、20.7%となりました。

② トピックス

- ・計測機器事業の状況
- ・地域別受注
- ・中国事業の進捗
- ・新製品上市の状況

<関税の影響>

日本では自動車を中心としたサプライチェーンで影響を受けたが、他の地域では大きな影響を受けていない

地域別受注高 前年同期比

為替影響を除く	FY2024 4Q	FY2025 1Q
日本	10~13%	0~3%
北米	17~19%	30~33%
欧州	0~3%	14~16%
中国	20~23%	7~9%
その他のアジア	17~19%	7~9%
内数 インド	47~49%	14~16%
計測全体	10%~13%	7~9%

当社の状況 (1Q)

日本	<ul style="list-style-type: none"> □ 関税影響を受けた自動車関連を、官庁/大学向けが補う □ LC、MS、NDIが伸長
北米	<ul style="list-style-type: none"> □ 製薬、臨床検査が好調。LiB評価向けも回復。MVS*の業績も貢献 □ LC、MS、試験機が伸長
欧州	<ul style="list-style-type: none"> □ 改正飲料水指令に基づく規制対策が牽引 □ MS、GCが伸長
中国	<ul style="list-style-type: none"> □ 政府支援策（官庁/大学向けが中心）、薬典改訂が牽引 □ MS、表面観察装置が伸長
インド	<ul style="list-style-type: none"> □ 製薬/CRO、産業分野でLiB評価向けが好調 □ LCが伸長

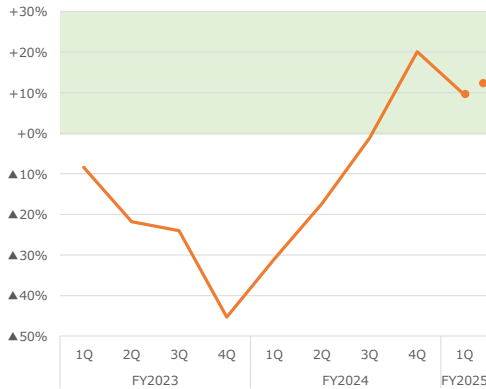
*マルチベンダーサービス：お客様が使用中の装置についての、製造元を問わず一社による一括したアフターサービス形態のこと

ここからは、計測機器事業の足元の受注状況および新製品投入の進捗についてご説明します。

まず、計測の地域別の受注実績についてご報告します。関税の影響としては、日本で、前年第4四半期に米国関税政策による投資環境の不確実性の高まりへの懸念から前倒しの受注があった反動減が生じていると思われ、また、輸送機・鉄鋼などの市場では関税政策によるコスト増懸念から需要の減退がみられました。そのほかの地域では当四半期は特に大きな影響は生じませんでした。この結果、計測機器の受注は、画面左側の表に記載しております通り、為替影響を除くと、主要地域すべてで前年同期比プラスとなりました。特に北米では前年第4四半期の前年同期比プラス17~19%に続き、当四半期も前年同期比プラス30~33%と大きく成長しています。これは北米R&Dセンターで開発した多検体処理用途の質量分析システムNexera QXが臨床検査会社向けに増加したためです。また、中国も前年第4四半期の前年同期比プラス20~23%に続き、当四半期も前年同期比プラス7~9%と回復傾向が継続しています。中国については、次ページで詳細をお話いたします。また、右側は、特に読み上げることはいたしません、当四半期に好調であった市場および機種を地域別に記載しておりますのでご覧ください。

- 低迷を続けていた中国市場は、2四半期続けて対前年同期比プラス成長
- 官需：政府支援策もあり官庁/大学向けが好調
- 民需：全体としては弱いが、製薬（薬典改訂とバイオ医薬関連で動きあり）や食品安全向けは成長

受注高前年同期比（為替影響を除く）



<p>政府支援策 大規模な設備更新と消費財の買い替えを推進する行動計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 引き続きアカデミア、税関が中心 □ 中国国産品との競合がメイン □ 先期受注残を今期売上に展開
<p>ヘルスケア / 製薬 FY2025 薬典改訂 2025年10月施行</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 重点管理物質や分析法を追加（新規/更新需要が拡大） □ 需要拡大は施行前後の約1年間 □ 顧客にあわせたアプリケーションを強化
<p>グリーン 生態環境監測標準体系を公布 PFASを含む14物質が対象</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 国家標準制定に向けて、政府系検査機関が分析メソッドを研究中（需要は限定的） □ 国家標準の制定および施行段階では、第三者検査機関を中心に需要拡大

中国事業について現状および今後の取り組みをご説明します。

中国では、先ほどご紹介したとおり、受注が、為替影響を除いた現地通貨ベースで前年同期比プラス7～9%となり、7四半期マイナス成長が続いたあと、2四半期連続してプラス成長を続けています。官需市場のうち大規模設備投資プロジェクトでは、第1四半期に4～7ミリオンUSドルの受注を獲得しました。引き続き受注獲得に注力し、2025年度で30ミリオンUSドルの受注を目指します。また、製薬市場では、薬典改訂に伴う需要が当初想定より遅れたものようやく出てきており、第1四半期にこちらも4～7ミリオンUSドルの受注を獲得しました。3月に公布された内容から、新たな重点管理物質や分析法の追加項目数などを確認した結果、年間受注目標としては2020年の前回改定時の半分程度を目指しています。さらに、グリーン市場では、PFASを含む14種類の環境汚染物質を規制する法案の制定の動きも出てきています。現在は法案制定に携わる公的機関への需要にとどまっていますが、今後は、民間検査機関にも需要拡大が見込まれます。

中国事業では、受注は堅調に成長を続けておりますので、これらを着実に売上へと転化してまいります。

新製品上市の状況



高速液体クロマトグラフ質量分析システム
LCMS-8065XE
2025年8月発売

- 新開発技術により安定性と感度が向上
- ユーザー支援機能によりラボの効率運用に貢献
- PFAS分析向けトータルソリューションを提供
- PFAS分析に最適化した高感度モデル



走査電子顕微鏡
SUPERSCAN SS-3000
2025年4月発売

* チェコTESCAN社との共同ブランド

- 高分解能観察と高い操作性を実現
- 材料表面の微細構造観察など、幅広い研究開発用途に有効

MALDI-TOFMS用微生物同定ソフトウェア
MicrobialTrack
2025年5月発売



- 感染症対策分野での戦略製品
- 全世界で高まる微生物同定向け検査需要に対応



回診用X線撮影装置
MobileDaRt Evolution MX9 Version
2025年4月発売

- 当社回診用X線撮影装置のフラッグシップモデル
- セカンドモニタと3Dカメラで検査効率化



精密万能試験機 オートグラフAGS-Vシリーズ
2025年5月発売

- 高精度で効率性と操作性を兼ね備えた普及機モデル
- 自動車用部品や電池材料などの研究開発・品質管理に貢献

マイクロプラスチック向け粒子解析システム
2025年8月発売



- 社会課題であるマイクロプラスチックの分析に最適なシステム
- 様々な分析計測機器と合わせて多角的な調査・研究に貢献

* 技術指導：愛媛大学片岡智哉准教授

次に、新製品の上市進捗についてご報告いたします。5月の通期決算説明会で、本年度中に10機種以上の業績に貢献する新製品を発売する旨をご説明しました。発売済みの製品を具体的にご説明したものがこのスライドです。

計測機器では7機種以上を予定しており、うち5機種をすでに発売いたしました。高速液体クロマトグラフ質量分析システム「LCMS-8065XE」、走査電子顕微鏡「SUPERSCAN SS-3000」、MALDI-TOFMS微生物同定ソフトウェア「マイクロビオトラック」、精密万能試験機「オートグラフAGS-Vシリーズ」、および、赤外顕微鏡または赤外ラマン顕微鏡と専用ソフトウェアを組み合わせた「マイクロプラスチック向け粒子解析システム」です。

続いて医用機器ですが、こちらは今年度3機種以上の新製品発売を予定しており、すでに4月に、光学カメラつきで操作性に優れた「MobileDaRt Evolution MX9 Version」を発売済みです。本製品は当社の回診用X線撮影装置のフラッグシップモデルです。

これらはいずれも本年度に発売した製品であり、まさに現在受注に向けた活動を進めている最中です。

ここで、新製品のうち、当社の重点機種であり、特に業績貢献を期待している「LCMS-8065XE」について、特長をご説明いたします。本製品は、新開発のイオン源や改良した検出器の搭載により、当社従来製品よりも、分析データの安定性と、分析の際の感度が向上したLCMSの高感度モデルです。本製品は、ダウンタイムを減らしてラボ運用を効率化する「自動チューニング機能」や、消費電力を最適化する「エコロジーモード」なども搭載して、お客様のラボ運用に貢献してまいります。高感度および多成分一斉分析が求められるPFAS分析の需要に最適化し、PFAS分析で求められる感度にも十分に対応しています。各国のPFAS規制に対応したPFAS分析用データベースやPFAS分析用解析ソフト、PFAS分析用消耗品などもあわせて発売し、お客様のニーズに応じた組み合わせ提案により、トータルソリューションを実現していきます。また、本製品は、各種データベースや解析ソフト、消耗品といったいわゆる「アプリケーション」をトータルで製品発売と同時に提供することにより、発売直後からの受注・売上活動の加速を可能とし、速やかな今期業績への貢献を実現してまいります。今後も、計測機器および医用機器の新製品を投入してまいります。これら製品の中には、来月、9月3～5日に開催されます分析機器・科学機器総合展、いわゆるJASISでの発表を予定している製品もございますし、その後発表を予定している製品もございます。今後の豊富な新製品ラインナップにも、ぜひご期待ください。

以上、ご説明申し上げたとおり、当社業績および足元の受注状況は決して悪くなく、堅調に推移している状況です。

03 2025年度通期業績予想

2025年度通期業績予想（関税影響を精査中）

150
YEARS
ANNIVERSARY

- 米国関税政策の直接影響・間接影響は見直す予定
- 世界経済に与える8月以降の関税率改定影響を精査中のため、業績予想を据え置く

売上高	5,150 億円	対前期	▲240 億円	▲ 4 %
営業利益	580 億円	対前期	▲137 億円	▲19 %
経常利益	580 億円	対前期	▲140 億円	▲19 %
当期純利益	450 億円	対前期	▲ 88 億円	▲16 %
通期為替レート		研究開発費	設備投資	減価償却
米ドル：140円		対前期	対前期	対前期
ユーロ：155円		295 億円 + 6 億円	250 億円 + 21 億円	200 億円 + 1 億円
関税影響		売上高	▲250 億円	営業利益 ▲180 億円

それでは通期の業績見込みについてご説明します。

米国関税政策の直接影響・間接影響はいずれも見直す予定ですが、世界経済に与える8月以降の関税率改定影響を精査中のため、今年度の通期業績予想については、現時点では、5月に発表した売上高5,150億円、営業利益580億円の予想を据え置きます。5月にご説明した通り、ワーストケースとして、関税影響は今年度1年間で売上高影響マイナス250億円、営業利益影響マイナス180億円を見込んでいます。

2025年度通期セグメント別業績予想 (関税影響を精査中)



・業績に貢献する新製品を10機種以上発売し、新たな価値を提供することで目標超過を目指す

- 計測：投資が進む市場での拡大、新製品投入による付加価値訴求で関税影響を最小限に抑える
- 医用：新製品によるX線機種と血管撮影システムを展開、保守契約拡大により成長を目指す
- 産業：半導体向けTMPの拡販とアフターサービス強化で成長を目指す
- 航空：好調な需要を背景に高い売上を維持、利益は防衛案件影響により減少を見込む

単位: 億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2024	FY2025 予想	前期比		FY2024	FY2025 予想	前期比		FY2024	FY2025 予想	前期比 増減
			増減額	増減率			増減額	増減率			
計測機器	3,479	3,250	▲ 229	▲ 7%	521	425	▲ 96	▲ 18%	15.0%	13.1%	▲ 1.9pt
医用機器	726	730	+4	+1%	43	50	+7	+17%	5.9%	6.8%	+1.0pt
産業機器	723	730	+7	+1%	105	100	▲ 5	▲ 4%	14.5%	13.7%	▲ 0.8pt
航空機器	387	385	▲ 2	▲ 0%	61	35	▲ 26	▲ 42%	15.7%	9.1%	▲ 6.6pt
その他	76	55	▲ 21	▲ 27%	6	8	+2	+27%	6.4%	10.0%	+3.6pt
調整額	-	-	-	-	▲ 18	▲ 38	▲ 20	-	-	-	-
合計	5,390	5,150	▲ 240	▲ 4%	717	580	▲ 137	▲ 19%	13.3%	11.3%	▲ 2.0pt

セグメント別の業績予想についても同様に、本スライドでお示ししているとおり、5月に発表した業績予想を据え置いております。

これでご説明を終わります。引き続きご支援賜りますようお願いいたします。

(ご案内) 9/5 計測機器事業説明会 & JASIS島津ブースツアー

150
YEARS
ANNIVERSARY

■ アジア最大級の分析・計測機器展示会「JASIS」会場にてアナリスト・機関投資家向け計測機器事業説明会を開催

開催日時 2025年9月5日 (金) 13:00 - 15:45

開催場所 幕張 + オンライン配信併用

プログラム

13:00 - 13:50 : 製薬業界向けソリューションのご紹介

13:50 - 14:30 : 質疑応答

14:45 - 15:45 : JASIS島津ブースご案内

プレゼンター 常務執行役員 分析計測事業部長 富田 真巳





本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、
経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素に
より、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

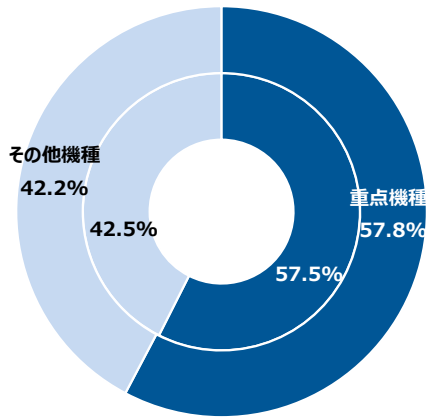
お問い合わせ先：(株)島津製作所
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ
電話：075-823-1673
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

補足資料

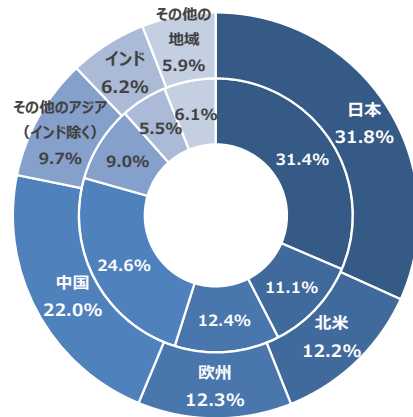
計測機器 / 各種売上高構成比率 (1Q)



機種別



地域別

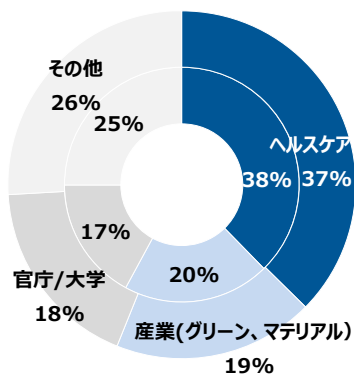


※円グラフ外側はFY2025実績、内側はFY2024実績を示す

計測機器 / 領域別売上高比率 (1Q)



市場別売上高構成比



市場と主な業界	構成比		売上高 前年同期比	概況
	FY2024	FY2025		
ヘルスケア ●医薬品・食品 ●医療機関 ●受託分析業	38%	37%	+2%	・医薬は北米・欧州・東南アジア・インドで増加 ・臨床（医療機関）は北米で増加するも、中国・欧州で減少 ・中国を除きグローバルで増加
産業 (グリーン、マテリアル) ●化学・素材 ●電機 ●自動車	20%	19%	▲6%	・日本で関税影響により自動車関連が減少 ・北米で石油化学向けにGCが増加
アカデミア・官庁	17%	18%	+9%	・北米は政策影響で引き続き低調 ・官庁/大学向けに表面観察システムが伸長

※円グラフ： 外側 FY2025実績 内側 FY2024実績

計測機器 / 重点機種売上高前年同期比



- 重点機種
 - LC : 日本で化学向け増加。中国で民需停滞により減少
 - MS : 北米で臨床向けが大きく増加。日本・インドでは医薬・食品向けに増加
 - GC : 欧州で化学向け増加。中国で民需停滞により減少

為替影響を含む	FY2023					FY2024					FY2025
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
重点機種	+18%	+13%	+12%	▲2%	+10%	+3%	▲2%	+2%	+8%	+3%	+3%
全体	+16%	+10%	+6%	+2%	+7%	+3%	▲1%	+4%	+4%	+3%	+3%

為替影響を除く	FY2023					FY2024					FY2025
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
重点機種	+12%	+8%	+7%	▲10%	+4%	▲6%	▲5%	▲0%	+6%	▲1%	+9%
全体	+11%	+6%	+2%	▲4%	+3%	▲5%	▲3%	+3%	+3%	▲0%	+7%

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

計測機器 / 地域別売上高

150
YEARS
ANNIVERSARY

単位 億円	FY2024	FY2025	前年同期比		概況
			増減額	増減率	
日本	232	241	+9	+4%	・化学向けで研究開発・品質管理用途に液体クロマトグラフが増加 ・食品、大学向けに質量分析システムが増加
海外	506	517	+11	+2%	・海外売上高比率は68.6%から68.2%へ微減
北米	82	92	+10	+13%	・臨床検査向けで質量分析システムが増加 ・石油化学向けでガスクロマトグラフが増加
欧州	91	93	+2	+2%	・化学向けで小型・高性能が評価されガスクロマトグラフが増加
中国	181	167	▲15	▲8%	・政府の景気支援策により官公庁・大学の需要は回復傾向 ・民間市場の回復遅れの影響を受け液体クロマト分析システムをはじめ全体的に減少
その他のアジア (インド除く)	66	74	+8	+11%	・東南アジア、韓国で官庁・大学向けに質量分析システムが増加
インド	40	47	+6	+16%	・医薬、食品向けで、質量分析システムが増加

計測機器 / 地域別売上高前年同期比



- 日本：化学向けにLC、食品・大学向けにMSが増加
- 海外：北米は臨床向けにMSが大幅増加。中国は民需が停滞も、回復傾向

為替影響を含む	FY2023					FY2024					FY2025
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
日本	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%	+5%	+2%	+12%	▲2%	+3%	+4%
北米	+1%	+4%	▲4%	+7%	+2%	+13%	+13%	+21%	+11%	+14%	+13%
欧州	+20%	+27%	+21%	+10%	+19%	+8%	+4%	+3%	+7%	+5%	+2%
中国	+31%	▲4%	+6%	▲21%	+1%	▲5%	▲19%	▲10%	▲2%	▲9%	▲8%
その他のアジア	+15%	+20%	+20%	+11%	+17%	+4%	+3%	+1%	+13%	+5%	+13%
インド	+27%	+14%	+32%	+8%	+20%	+20%	+25%	+4%	+24%	+17%	+16%

為替影響を除く	FY2023					FY2024					FY2025
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
日本	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%	+5%	+2%	+12%	▲2%	+3%	+4%
北米	▲4%	▲1%	▲8%	▲4%	▲4%	▲0%	+9%	+17%	+7%	+8%	+22%
欧州	+11%	+13%	+10%	▲3%	+8%	▲4%	▲0%	+0%	+7%	+1%	+4%
中国	+24%	▲9%	+2%	▲31%	▲5%	▲16%	▲21%	▲12%	▲4%	▲14%	▲1%
その他のアジア	+10%	+15%	+15%	▲0%	+10%	▲7%	▲0%	▲1%	+12%	+1%	+21%
インド	+20%	+9%	+26%	▲4%	+12%	+6%	+20%	+0%	+21%	+11%	+25%

※CxO：CRO、CMOならびにCDMO

計測機器 / 領域別売上高前年同期比



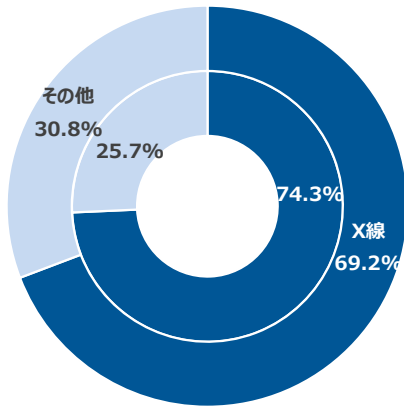
	FY2023					FY2024					FY2025
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
ヘルスケア	+24%	+7%	▲4%	▲8%	+3%	+1%	▲4%	+5%	+11%	+3%	+2%
産業 (グリーン、マテリアル)	+15%	+8%	+6%	+5%	+8%	+7%	+2%	+2%	+8%	+5%	▲6%
アカデミア/官庁	+20%	+25%	+23%	▲2%	+14%	▲2%	▲8%	▲8%	▲7%	▲6%	+9%

※為替影響を含む

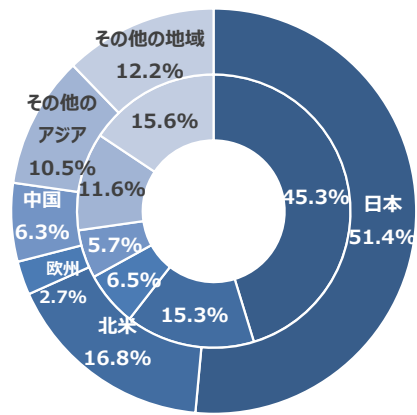
医用機器 / 各種売上高構成比率 (1Q)



機種別



地域別



※円グラフ外側はFY2025実績、内側はFY2024実績を示す

医用機器 / 地域別売上高



単位 億円	FY2024	FY2025	前年同期比		概況
			増減額	増減率	
日本	70	70	+0	+1%	<ul style="list-style-type: none"> 放射線治療支援システムが増加 市況回復の遅れによりX線機種が全体的に減少
海外	85	66	▲18	▲21%	<ul style="list-style-type: none"> 海外売上高比率は、49%と前年同期比6pt減少
北米	24	23	▲1	▲2%	<ul style="list-style-type: none"> X線TVシステムや血管撮影システムが新製品効果で伸長したものの、 為替影響で減少
欧州	10	4	▲6	▲63%	<ul style="list-style-type: none"> 東欧での官公庁予算執行の遅延により減少
中国	9	9	▲0	▲3%	<ul style="list-style-type: none"> X線TVシステムや一般撮影システムが設備更新政策により回復傾向に転じたものの、為替影響で減少
その他の アジア	18	14	▲4	▲20%	<ul style="list-style-type: none"> 顧客都合による据付遅れなどで、血管撮影システムや一般撮影システムが減少

医用機器 / 地域別売上高前年同期比



- 国内：市況回復遅れの影響を受けX線機種は減少したものの、放射線治療支援システムが増加
- 海外：欧州が市況停滞で大幅減、北米・中国は為替影響により減少

為替影響を含む	FY2023					FY2024					FY2025
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
日本	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%	▲1%	▲3%	▲5%	+3%	▲1%	+1%
北米	▲18%	+11%	▲2%	+0%	▲1%	+37%	▲8%	▲6%	+40%	+14%	▲2%
欧州	+16%	▲7%	+41%	+0%	+12%	+11%	▲30%	+3%	▲44%	▲14%	▲63%
中国	+24%	+38%	+7%	▲5%	+15%	▲36%	▲29%	▲36%	▲22%	▲31%	▲3%
その他のアジア	+20%	▲28%	+10%	+27%	+3%	+15%	+47%	+1%	+16%	+19%	▲20%

為替影響を除く	FY2023					FY2024					FY2025
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
日本	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%	▲1%	▲3%	▲5%	+3%	▲1%	+1%
北米	▲23%	+6%	▲6%	▲10%	▲7%	+21%	▲12%	▲8%	+35%	+8%	+5%
欧州	+7%	▲18%	+28%	▲11%	+1%	▲1%	▲32%	▲1%	▲42%	▲17%	▲62%
中国	+17%	+32%	+3%	▲17%	+8%	▲43%	▲32%	▲37%	▲24%	▲34%	+5%
その他のアジア	+14%	▲31%	+6%	+16%	▲2%	+5%	+41%	▲0%	+13%	+14%	▲14%

産業機器 / 機種別売上高前年同期比



- **TMP** : 半導体製造装置向けが増加
- **油圧** : 産業車両向けが軟調
- **その他機種** : 自動車用セラミック部品製造向け工業炉が減少

為替影響を含む	FY2023					FY2024					FY2025
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
TMP	▲3%	+0%	▲0%	+15%	+3%	+27%	+7%	+10%	+12%	+14%	+3%
油圧	+10%	+8%	▲4%	+1%	+3%	▲4%	▲4%	▲2%	▲1%	▲3%	▲3%
その他	▲2%	+2%	+10%	+11%	+6%	+29%	+42%	+7%	▲16%	+12%	▲19%

為替影響を除く	FY2023					FY2024					FY2025
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
TMP	▲7%	▲4%	▲4%	+6%	▲2%	+17%	+5%	+9%	+11%	+10%	+8%
油圧	+9%	+7%	▲6%	▲2%	+2%	▲7%	▲5%	▲3%	▲1%	▲4%	▲1%
その他	▲4%	+1%	+8%	+6%	+3%	+22%	+40%	+5%	▲16%	+10%	▲16%

※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を、「産業機器」へ移管。
 FY2024およびFY2023の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた上で、FY2024/FY2023の前期比較においては、前年の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較。

リカーリング比率

- 計測 : 北米で臨床向けメンテナンス・サービスが増加
- 医用 : 北米でサービス網強化によりメンテナンス・サービスが増加
- TMP : 台湾、韓国で顧客カバー率向上により増加

計測	FY2023					FY2024					FY2025
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
リカーリング売上高 前期比	+10%	+3%	▲4%	▲2%	+1%	+0%	+4%	+10%	+7%	+6%	+10%
リカーリング比率	39%	35%	37%	34%	36%	41%	38%	40%	35%	38%	42%

医用	FY2023					FY2024					FY2025
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
リカーリング売上高 前期比	▲3%	▲7%	+1%	+0%	▲2%	▲1%	+0%	▲0%	+4%	+1%	+6%
リカーリング比率	42%	34%	37%	33%	36%	41%	36%	40%	34%	37%	47%

TMP	FY2023					FY2024					FY2025
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
リカーリング売上高 前期比	▲9%	▲8%	+10%	+36%	+6%	+46%	+50%	+34%	+28%	+38%	+24%
リカーリング比率	15%	14%	18%	17%	16%	19%	19%	22%	19%	20%	21%

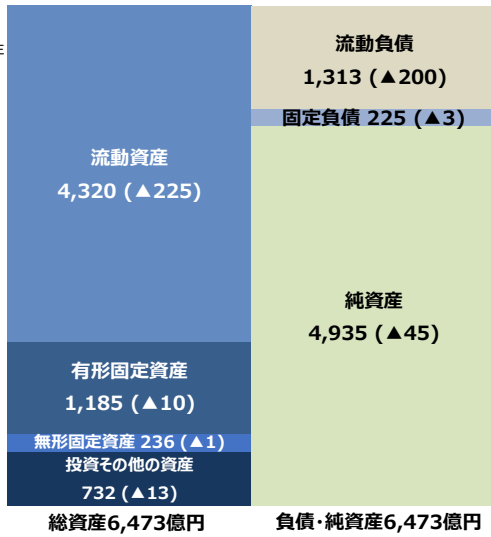
※為替影響を除く

連結財政状態



- 2025年6月末総資産 6,473億円 (2025年3月末から▲249億円)
- 売上債権の回収により、流動資産が減少

(億円)
増減は2025年
3月末対比



資産

流動資産 ▲225億円

- 売上債権 ▲250億円

負債・純資産

流動負債 ▲200億円

- 賞与引当金 ▲79億円
- 支払債務 ▲58億円

純資産 ▲45億円

- 利益剰余金 ▲39億円